

狭山市教育委員会
教育長 滝嶋 正司 様

狭山市立山王小学校
校長 市川 博康

令和7年度 狭山市立山王小学校 自己評価書

1 本年度の重点目標

- (1) 「自立する力」の育成 (2) 学力・体力の定着・向上
 (3) 教育活動の充実 (・生徒指導・教科担任制・学校事故防止) (4) 特別支援教育の充実
 (5) 学級経営の充実 (・多様性を受け入れる・信頼関係を築く・トラブルを「学び」に変える)
 (6) 強く・美しい学校 (7) 地域の中の学校 (8) 働き方改革について

2 本年度の経営方針

学べてよかった、通わせてよかった、勤めてよかったと思える楽しくて暖かい山王小学校を築く
 今日一日いろいろあったけど、学校が楽しかったなと思える学校にしましょう。

3 自己評価結果

【評価の目安】 A : よくできている (90%) B : 概ねできている (80%以上) C : あまりできていない (70%以上) D : できていない (70%未満)

領域	番号	評価項目	評価	自己評価
学校運営全般	1	学校の重点目標が明確である。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりを多く発行してくれていて、学校の様子がよく伝わる。 運動会や音楽会等、子供のがんばりを伝えられるような取り組みが多い。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の安全点検、災害時の避難訓練方法の見直し、感染症対策等、年間を通して全職員共通理解のもと取組を行っている。 夏休みの防犯研修を受けて、正門に簡易ブザーを設置するなど、積極的に行動している。 怪我の際、迅速な判断ができています。不具合を報告するとすぐに対応できています。
	4	学校は、働き方改革について積極的に取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> 放課後の時間の確保、校内研修の精査、日課表の変更等、働き方改革に向けた取り組みが多く行われている。 スクールサポートスタッフに作業をお願いできる環境で、自分のやるべき仕事に集中できる。
	5	学校（職員室・各教室、校庭等）が整理整頓されていて、きれいである。	C	<ul style="list-style-type: none"> 清掃主任に確認をして、清掃が分担されていない教室も子供たちと相談して清掃を行うことができた。 特別教室にものが多い。整理整頓がなされていない教室があるので、不必要なものを片付ける。 職員の机上の整理も心がけたい。
	7	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> 些細なことも報告や相談をすぐに行うことができ助かっている。 学年間での協力しながら情報の共有や、授業進捗の確認・教材研究のアドバイス等をいただき、自クラスの学級経営に生かしている。
確かな学力の育成	8	教師は、研修に主体的に取り組む、指導力の向上に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 1月の発表に向けて各々が研究を進められた。このまま無理なく継続できる校内研修を進めたい。 学校研究の取組方法が変わったこともあり、教師自ら主体的に学ぶ機会が増えていると思う。 校内研修の時間がきちんと確保されていて、指導について考える時間があってよいです。
	9	教職員は、児童が分かりやすい授業や子供たちに火をつけるような授業に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を見せたり、板書を工夫したり、児童が意欲的に授業に臨めるようにしている。 子供たちの実態を理解し、より分かりやすく興味がわくような授業になるよう教材研究に心がけている。 お互いに授業を見合う時間があると、もっと授業力が高まる。

	10	教職員は、電子黒板、タブレット等、ICT 機器を活用している。	A	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板で授業をした後黒板の画面を保存しておく、いつでも振り返ることができるのですごく便利。 不具合の際、現在の状況や改善方法をいち早く全体に周知することも必要だった。
	16	児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> 時間を児童・教師側が共に意識して過ごすようになると、自然と落ちついた状態で授業を開始することができている。 聞く時間と話す時間があいまいになってしまうこともあるが、だんだんと聞く姿勢をすばやく作れるようになってきた。 一斉授業に偏ることなく、児童の興味・関心を引き、児童自身が選択し探求していける授業作りを再度考える必要もある。
豊かな心の育成	13	教職員は、いじめの早期発見・早期対応に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの実施が、早期発見に役立っている。 さやまっ子相談員が来室する子供に寄り添い、早期発見早期対応ができている
	15	教職員は、生徒指導事案について、子供たちの学びにつなげようとしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 日々、一つ一つのトラブルにていねいに寄り添っている。 小さな出来事が子どもたちの悩みのたねにならないよう、児童同士の間にはもちろん、教師側に問題があれば過ちを認め、解決の手立てを一緒に考えようとしている。 何かあった時に児童からの聞き取りを細かくして、児童に考えさせるような指導をしている先生方が多い。
	17	児童は、なかよしタイムや協働学習などに、意欲的に取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> なかよしタイムでは、6年生を中心に異学年と協力して活動を行う姿が多くみられる。 1学期よりも、結びつきや高学年への感謝を感じる記述が増えた。 今年度なかよしタイムの形式が変わり、児童が進んで参加できるような遊びになった。
	18	児童は、時間や決まりを守って生活している。	B	<ul style="list-style-type: none"> 何をするにも「次は何をしますか」「何時に始まりますか/終わりますか」と、時間を意識した声かけをしている。 授業などでできまりについて確認した際には、さまざまな決まりやルールへの理解があると認識している。 クラスによって差があるが、繰り返し、指導することをあきらめず続けていく。
	19	児童は、進んであいさつをしている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 朝の挨拶や帰りの挨拶に限らず、学校にいる間に会う人や号令の際に、相手に気持ちのいい挨拶ができるよう指導している。 挨拶の生活目標では、クラスで目標を決め、それに向けて進んで挨拶をしている。
	20	児童は、場に応じた言葉遣いできている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧な言葉遣いで話すことが出来ない児童も見受けられるので、その都度指導している。 対教師には敬語を使える児童がほとんどだが、敬語を使えない児童が多いので、その都度指導している。
健康・体力	11	教職員は、児童に自ら考え、判断し、行動する力を身に付けようとしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 指導する時には、どうしてなのかを考えさせるようにしている。 何かあった時、児童の思いを聞いたり、何に気をつければよいのか考えさせたり、といった対応をされている先生方の姿を見て、とても丁寧だなと感じる。
	14	教職員は、「できた」と実感できる体育授業づくりや体力向上に取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> 教材研究や、他クラスの実践を参考に、こちらの展開の幅も今後さらに広げている。 積極的にスモールステップを取り入れ、運動が苦手な児童にも達成感を味わえる授業を行うことが徐々にできるようになってきた。
家庭地域との連携	3	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会が発足したくさんの方の意見が教育活動に反映されるようになってきた。 器楽クラブや家庭科ボランティアは、皆さん忙しい中来ていただいでいいて大変助かっている。 町探検では、たくさんの保護者がボランティアに応募してくれたおかげで、安全に実施することができた。
	6	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供している。	A	<ul style="list-style-type: none"> スクリレの活用で保護者へ手紙が行き届くようになってきていると思うから。 学校だよりの配信頻度が多く、保護者の方が写真などを通して、学校の様子を知ることができていると思う。運動会や音楽会の保護者の声を学校だよりに載せるのは児童にも保護者にも伝わり、とても良いと思う。
	12	教職員は、児童や保護者、地域、教職員へ進んで挨拶をしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 来校者へは、防犯の意味もかねて、積極的に挨拶をしている。 学校運営協議会やSSVCなど、地域の方へ積極的に挨拶をしている。 教職員の挨拶をする姿が子供たちへの見本となっている。

狭山市教育委員会
教育長 滝嶋 正司 様

狭山市立山王小学校
校長・市川 博康

令和7年度 狭山市立山王小学校 学校関係者評価表

- ※【評価の目安】
A：よくできている。(90%以上)
B：概ねできている。(80%以上)
C：あまりできていない。(70%以上)
D：できていない。(70%未満)

領域	番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員から 評価(文章表記)
			評価	説明	
学校運営全般	1	学校の重点目標が明確である。	A	・校長の週1回配信している学校だよりで、学校の目標が職員や保護者に浸透している。 ・学校行事の運営の際等、たくさんの先生方に助けていただいたり、あたたかい声をかけていただいたりと、気持ちが救われている。	・スクリーン配信で、ある程度、明確になっている。 ・行事のときは協力して取り組んでいる様子が見られる。
	2	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	A	・些細なことも報告や相談をすぐに行うことができ助かっている。また、風の子の交流に対しても理解がある児童が多く、担任の先生方の温かい配慮のおかげである。	・各教室や校庭等は比較的美観になっていいる。 ・学校運営と言うことで校長が常に目標を示し進むべき方向を導いていることは素晴らしいと思います。
	3	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	A	・毎月の安全点検、災害時の避難訓練方法の見直し等、全職員共通理解のもと取組を行っている。 ・特別教室に私物があるので整理していく。	・週1回の情報発信、先生の協力等、学校運営に努めていると思われる。
	4	学校(職員室・各教室、校庭等)が整理整頓されていて、きれいである。	B	・職員室や教室を毎日掃除、整理整頓しているが、プリントの整理や、教室内の清掃が行き届いていないところがある。	・校舎の経年劣化は防ぎようがありませんが、安全第一により一層の維持管理をお願いします。
確かな学力の育成	5	教師は、研修に主体的に取り組み、指導力の向上に努めている。	A	・新しい形の研修で戸惑う部分も多い中、1月の発表に向けて各々が研究を進めることができた。 ・学校研究の取組方法が変わったこともあり、教師自ら主体的に学ぶ機会が増えていると思う。	・研究発表会の準備等を見る限り、指導力向上に務めている様子が見られる。 ・教室の黒板、電子黒板、児童のPCを駆使しながら、わかりやすく授業に努めているようである。
	6	教師は、児童がわかりやすい授業に務めている。	A	・校内研修の時間がきちんと確保されていて、指導について考える時間があつてよい。 ・具体物を見せたり、板書を工夫したり、導入で気持ちを和らげるような雑談を交えたり、児童が意欲的に授業に臨めるようにしている。	・特定の配慮を要する児童を除いては、比較的落ち着いて学習できているようである。 ・学力は児童それぞれの個人差が大きく大変な問題だと思えますが、教師の方々の努力によってしっかりと指導されていると思います。
	7	児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。	A	・タブレットや電子黒板を活用して、児童の理解が深まるよう授業を工夫している。	・自主学習、家庭学習の評価の原因を分析して、改善策をとられることを望みます。
	8	学校は、日々の教育活動をととして、子供の学力を伸ばしている。	A	・電子黒板で授業をした後黒板の画面を保存しておく、いつでも振り返ることができるので、活用している。 ・時間を児童・教師側が共に意識して過ごすようになると、自然と落ちついた状態で授業を開始することができている。	
	9	子供は、宿題や自主学習等、自ら学習の取り組み、家庭学習の習慣が身に付いている。	C	・廊下を走ったり、大きな声で私語しながら移動している児童が目立つので、その都度声をかけ指導している。	
豊かな心の育成	10	児童は、進んであいさつをしている。	B	・相談室利用の順番待ちができるほど、週3回来てくださる相談員さんの存在は、児童にとっても職員にとっても大きなものとなっている。 ・声掛け、やり直し等、継続して指導を行うチャームが鳴るとすぐに切り替えて教室へ戻る姿勢が素晴らしい。	・徹底して挨拶ができる児童にはまだなっていない。学校訪問時に、挨拶できる児童と挨拶できない児童が大きく別れている。誰に対しても挨拶できるように徹底指導を望む。
	11	児童は、場に応じた言葉遣いができている。	B	・クラスによって差がある。時間を守れない児童がいる。指導することをあきらめず続けていきたい。	・ため口が多い若者が多いことから、なぜ場に応じた言葉づかいが必要かも含めて指導を願いたい。
	12	児童は、時間や決まりを守って生活している。	B	・朝の挨拶や帰りの挨拶に限らず、学校にいる間に会う人や号令の際に、相手に気持ちのいい挨拶ができるよう指導している。	・ルールを守ることを小学校の時に徹底してほしいと思います。
	13	教職員は、いじめの早期発見・早期対応に努めている。	A	・正しい言葉遣いができていない場合、言い直しをさせている。また、授業中はできているが、休み時間やクラブ活動などは差がある。	
健康・体力	14	学校は、日々の教育活動をととして、子供の体力を伸ばしている。	A	・体育の教材研究や、他クラスの実践を参考に、こちらの展開の幅も今後さらに広げられるよう研究をしている。	・暑い時期などは熱中症に注意しながら、体力向上に努めてもらいたい。また、体育館などの室内運動も積極的に取り入れ、児童の体力を伸ばしてもらいたい。
	15	教職員は、「できた」と実感できる体育授業づくりや体力向上に取り組んでいる。	A	・積極的にスモールステップを取り入れ、運動が苦手な児童にも達成感を味わえる授業を行うことが徐々にできるようになってきた。 ・誰でも同じように体育の授業ができる「山王小体育必修」を作成し、体力が高まる体育授業を目指し実践している。	・体を動かすことでストレス発散になります。個人差もありますが楽しく続けられるように指導を続けていただければと思います。
	16	児童は、健康を意識した生活をしている。	A	・季節に応じて、感染症対策等を行うと共に情報を発信し、年間を通して全職員共通理解のもと取組を行っている。	・限られた時間の中で、能力差もある中、ご指導いただき感謝しています。
家庭地域との連携	17	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に発信している。	A	・学校だよりの配信頻度が多く、保護者の方が写真などを通して、学校の様子を知ることができていると思う。運動会や音楽会の保護者の声を学校だよりに載せるのは児童にも保護者にも伝わり、とても良いと思う。	・情報量が多すぎて、見逃してしまう保護者がいないかが少々心配である。 ・地域の方々を積極的に小学校に来てもらえるよう、各種行事の案内を今まで以上にお願いしたい。学校に来ていただくことで、連携が図れることが増えると思えます。
	18	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	A	・スクリーン配信により、他学年の情報も入手できるのはよい。また、保護者からの声も知らせてくださるので、双方向に情報を共有できるのはよい。	・学校と保護者、地域との情報共有は大事です。地域活動は社会性を育む意義があります。時に話題にして種々イベントへの参加を促してほしい。
	19	学校は、幼保中と連携し、なめらかな接続に心がけている。	A	・生徒指導や教育に関することを、こまめに保護者と連携をはかり、学校と家庭との共有をしている。	